

今週（11月5日から11月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期後半に入ったものの、序盤から積極的に積みを進捗させていた先が多く、着地に目処がつきつつあることから、調達ニーズが減退し、日を追うごとにレートが低下する展開となった。日銀当座預金残高が概ね400兆円台後半で推移する中、無担保コールO/N物は、週初は国内勢を中心に▲0.035～▲0.02%のレンジでの出会いで始まった。その後は徐々にレートを切り下げる動きが見られ、無担保コールO/N物加重平均レートは日を追うごとに低下していった。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.02%近辺での出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、8日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額4,526億円（期落ち額5,641億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.150～▲0.080%程度のレンジで推移した。週初5日のGC T/Nは▲0.100～▲0.080%程度、6日は▲0.105～▲0.090%程度、7日は▲0.120～▲0.100%程度、8日は▲0.150～▲0.100%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y139～141、10y338～356、20y168～170、30y59～64、40y11～12等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、債券相場全体が軟調に推移する中、海外勢の積極的な買いも見られず、全般的にレートが上昇する展開となった。出合いは、3M物で▲0.170%程度が見られた。

6日に実施された短国買入オペは、1,000億円がオファーされた。平均落札利回較差+0.040%、按分落札利回較差+0.031%と、在庫調整の売りから弱い結果となった。

7日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.140%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1563%、按分落札利回▲0.1462%と、前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、ショートカバーもあって▲0.210～▲0.180%と強めの出会いも見られた。

8日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.145%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1492%、按分落札利回▲0.1451%と、WI取引を反映して落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、一部の鉄鋼・その他金融業態において大型発行が見られたものの、月初旬ということもあって、入札案件がゼロの日もあり、特段のイベントも無く静かなマーケットとなった。入札市場の週間発行・償還総額は共に3,000億円程度となった。市場残高は、7日時点で20兆654億円と、9月末以来の20兆円台を回復した。発行レートは、引き続き0%近辺が中心となっているが、一部の発行残高が少ない銘柄については強めの買いが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/4（月）						
11/5（火）	23,251.99	△ 0.140	108.77	△ 0.027	△ 0.071	4,071,600
11/6（水）	23,303.82	△ 0.090	109.06	△ 0.031	△ 0.096	4,080,400
11/7（木）	23,330.32	△ 0.090	108.70	△ 0.038	△ 0.116	4,059,800
11/8（金）	23,391.87	△ 0.065	109.35	△ 0.050	△ 0.111	4,061,800

来週（11月11日から11月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/11 (月)	決定会合における主な意見(10月30,31日分 8:50) 9月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 9月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 10月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				New York祝日(Veterans Day) 7-9月期の英GDP速報値
11/12 (火)	10月のマネーストック(日銀 8:50)	30Y 7,000億円 11/13発行			
11/13 (水)	10月の企業物価指数(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 11/22借入			10月の米財政収支 10月の米消費者物価指数 10月の英消費者物価指数
11/14 (木)	7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	5Y 19,000億円 11/15発行			10月の米生産者物価指数 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報
11/15 (金)	9月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 43,200億円 11/18発行	国有林野借入 818億円 11/25借入		10月の米小売売上高 9月の米企業在庫 10月の米鉱工業生産・設備稼働率 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/11 (月)	1,100	▲ 14,400	▲ 13,300	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 5,600 ▲ 100 200	4,500	▲ 1,000	▲ 14,300	TB3M発行▲42700償還42100 TB6M発行▲23000償還15900 10Y物価連動発行▲4000
11/12 (火)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	
11/13 (水)	0	▲ 8,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	源泉所得税揚げ 社会保障費等 30Y発行▲7000
11/14 (木)	0	0	0				0	0	
11/15 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	2Y償還13800 5Y発行▲19,000 個人向け3・5・10Y発行▲4500 償還800 交付税借入▲10,500償還10,500
週 間 合 計	1,100	▲ 27,400	▲ 26,300	—	▲ 5,500	4,500	▲ 1,000	▲ 27,300	

11/11は日銀予想、11/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、11日にTB3M・TB6Mの発行、13日に30Yの発行、源泉税揚げ、15日に5Yの発行など不足日が多い週となる。積み最終週を迎えるが、着地に向けた調整が済んでいる先が多いため、無担保コールO/N物加重平均レートは低めの水準で推移することが見込まれる。レポ市場は、GC O/N物は、▲0.150～▲0.090%程度での推移を予想する。短国市場は、15日に3M物の入札が実施予定となっている。足元ファンディングレートが低下する中、国内投資家の買いがどの程度入るのか、市場動向が注目される。CP市場は、今月は企業の資金需要が月末に集中すると見られることから、週を通して特段のイベントが無く、落ち着いたマーケット環境となることが見込まれる。

主要なイベントとしては、国内では14日に7-9月期のGDP1次速報値、海外では11日に7-9月期の英国GDP速報値、13日に10月の米国CPI、14日に7-9月期のユーロ圏GDP 2次速報値、15日に10月の米国小売売上高の公表などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入